

暑中お見舞い申し上げます。また、新型コロナウイルスの被災者、九州を中心とした集中豪雨などの被災者の方々に深くお見舞い申し上げます。

この度、2016年に続いて再び会長を仰せつかりましたが、三副会長ともども、この難局を乗り切り、業界発展に貢献すべく全力を尽くしますのでよろしくお願いいたします。

さて、日本塗装機械工業会（CEMA）は21世紀3ビジョン（①塗装の価値創造・展開②地球環境の保全③共生と共栄）を原点として21世紀の20年間活動をしてきましたが、今後10年間はSDGsの17項目の内、7. エネルギーをみんなに 9. 産業と技術革新の基礎をつくろう 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 17. パートナリシップで目標を達成しようの5項目を重点目標として具体的な活動を展開して参ります。

CEMAは本年度で設立44年目を迎えましたが、この間、対外活動としては、業界の各団体と技術交流を図り、2007年には日本工業塗装組合連合会とCEMAとで「工業塗装高度化協議会」を発足させ、現在は日本パウダーコーティング協同組合も加わり、IPCO（国際工業塗装高度化推進会議）へと発展しております。昨年度は、日本塗料商業組合青年部と「次世代塗装チームラボ」を発足させ、三部会（「建築・重防・船舶」「自補修」「工業」）で研究に取り組みを開始いたしました。

今回の新型コロナウイルス騒動により情報のネットワーク化があらゆる面で加速され、塗装機械業界も原材料の塗料と一体化となった技術開発が不可欠であり、そのために塗料や現場での塗装の様々な情報交換が必須となりますので、今後一層、関連塗料塗装団体との交流を深めて参ります。

残念ながら過去20年間毎年実施して来ましたがCEMAシンポジウムは、本年延期せざるを得ませんが、新たな情報発信に取り組む予定です。

塗装のハード面を担うCEMAとして、環境配慮とともに安全面での責任も重大であります。作業者の安全を期すための自動化には鋭意努力して参りましたが、今後はIoT、AIなどの最新技術を導入してロボット化、無人化を図り、安全度を向上させて参ります。

どうか、ご一緒に参画いただき、塗装の環境、安全面でのイメージアップを図り、内外から信頼される業界を目指して参りましょう。